

(様式) 社会資本総合整備計画（活力創出基盤整備） 事後評価書

平成 26 年 12 月 2 日

計画の名称	7 菊川市における地域間の一体性を図るアクセス強化と、まちの拠点環境整備によるにぎわいのあるまちづくり			
計画の期間	平成21年度 ~ 平成25年度 (5年間)	交付対象	静岡県、菊川市	
計画の目標				

合併した菊川市の旧両町を結ぶ主要幹線道路の整備により市の一体性、安心・安全、交流促進を図り、公共施設等を連絡するアクセス改善のための道路整備と併せて、区画整理事業による中心市街地の活性化と新たな市街地形成や商業集積を図るとともに、住みよい住環境整備と都市機能の高度化を図り、にぎわいのあるまちづくりに取り組む。

計画の成果目標（定量的指標）

- ・幹線道路までの未改良区間を改良することにより、短縮された時間の総和から算出した走行時間短縮率

定量的指標の定義及び算定式

定量的指標の現況値及び目標値

備考

① 実施走行調査により、道路整備に伴う移動時間の短縮時間を計測し、移動時間短縮率を算定する。 (走行時間短縮率) = (短縮された走行時間) / (整備前の総走行時間) × 100	当初現況値 (H21当初)	中間目標値	最終目標値 (H25末)	備考
		0.00%		

全体事業費	合計 (A+B+C)	2,553百万円	A	2,531百万円	B	0百万円	C	22百万円	効果促進事業費の割合 C / (A+B+C)	0.9%
-------	---------------	----------	---	----------	---	------	---	-------	---------------------------	------

事後評価

○事後評価の実施体制、実施時期

事後評価の実施体制	事後評価の実施時期
評価の透明性、客観性、公正さを確保するため、国からの指導に基づき、学識経験者を入れた評価委員会を1回開催し、これにより取りまとめた原案をもとに、市民への公表を行う。	平成26年度
	公表の方法
	評価完了後、市のホームページに掲載予定

1. 交付対象事業の進捗状況

交付対象事業

A1 地方道路整備事業													全体事業費 (百万円)	備考			
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	道路種別	省略工種	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市町村名	事業実施期間(年度)						
											H21	H22	H23	H24	H25		
7-A1	街路	一般	菊川市	直接	—	区画	改築	菊川駅南地区((都)中央通り線外)	区画整理 A=13.6ha	菊川市						110	
7-A2	街路	一般	静岡県	間接		区画	改築	宮の西地区((都)西方高橋線外)	区画整理 A=30.7ha	菊川市						98	
7-A4	街路	一般	菊川市	直接	—	S街路	改築	(都)赤土嶺田線	街路改築 L=0.63km	菊川市						204	H25~計画49に移行
7-A5	道路	一般	菊川市	直接	—	市町村道	改築	(他)奈良野下平川線	バイパス L=0.78km	菊川市						1,052	
7-A6	道路	一般	菊川市	直接	—	市町村道	改築	(他)赤土高橋線	バイパス L=1.10km	菊川市						822	
7-A7	道路	一般	菊川市	直接	—	市町村道	改築	(1)嶺田川上線	現道拡幅 L=0.18km	菊川市						53	
7-A8	道路	一般	菊川市	直接	—	市町村道	交安	(2)横地本線	歩道整備 L=0.16km	菊川市						143	
7-A9	道路	一般	菊川市	直接	—	市町村道	修繕	(他)尾花西方線外1路線(田ヶ谷橋、上ノ畑橋)	橋梁修繕2橋	菊川市						49	
小計(道路事業)																2,531	

B 関連社会資本整備事業

番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	省略工種	要素となる事業名	事業内容 (延長・面積等)	市町村名	事業実施期間(年度)					全体事業費 (百万円)	備考	
											H21	H22	H23	H24	H25		
合計																	

番号	一体的に実施することにより期待される効果	備考
----	----------------------	----

C 効果促進事業													全体事業費 (百万円)	備考		
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接 間接	事業者	省略 工種	要素となる事業名	事業内容	市町村名	事業実施期間 (年度)						
										H21	H22	H23			H24	H25
7-C1	調査・計画	一般	菊川市	直接	—	点検・計画	長寿命化修繕計画	橋梁点検・計画策定	菊川市						10	
7-C2	調査・計画	一般	菊川市	直接	—	点検・計画	長寿命化修繕計画	橋梁点検・計画策定	菊川市						12	
合計														22		
番号	一体的に実施することにより期待される効果														備考	
7-C1	橋梁の長寿命化修繕計画を策定することにより、橋梁の長寿命化並びに橋梁の修繕及び架替えに係る費用の削減を図りつつ、地域の道路網の安全性・信頼性を確保する。															
7-C2	橋梁の長寿命化修繕計画を策定することにより、橋梁の長寿命化並びに橋梁の修繕及び架替えに係る費用の削減を図りつつ、地域の道路網の安全性・信頼性を確保する。															

※交付対象事業については、できるだけ個別路線ごとに記載すること。

その他関連する事業													全体事業費 (百万円)	備考			
計画等の名称																	
事業種別	地域種別	交付 団体	直接 間接	事業者	道路 種別	省略 工種	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市町村名	事業実施期間 (年度)							
										H25	H26	H27	H28	H29			
7-A'4	街路	一般	菊川市	直接	—	S街路	改築	(都)赤土嶺田線	現道拡張 L=0.63km	菊川市						226	

2. 事業効果の発現状況、目標値の達成状況

I 定量的指標に関連する 交付対象事業の効果の発現状況				<ul style="list-style-type: none"> ・時間短縮率については、奈良野下平川線(7-A5)が開通しても赤土高橋線(7-A6)整備が未完成のため、旧道まで戻る必要が生じ、十分な時間短縮は図られなかった。しかし、奈良野交差点から県道相良大須賀線までの間を供用開始できたことにより、この間については交通量の分散化が図られ、交通の流れがスムーズになり旧道における交通渋滞の緩和に繋がった。また、歩車道分離による走行空間により、快適で安全な道路環境が整った。 ・旧両町の町境がバイパスで繋がったことにより、菊川市の南北方向の産業・文化交流の促進、経済・生活機能の向上など、地域の活性化と市の一体性が図られた。 ・旧道における交通量の減少により、騒音や振動が軽減され沿道付近の生活空間の快適性の向上と交通事故発生件数の減少による安全性の向上が図られた。 		
II 定量的指標の達成状況		指標① (道路整備に伴う移動時間の短縮率)	最終目標値	6.00%	総合所見	奈良野下平川線(7-A5)整備を行った結果、供用区間における走行時間は短縮されたが目標の達成には至らなかった。原因としては、赤土高橋線(7-A6)において都市計画道路の路線変更決定をおこなったことにより事業延伸となり次期計画へ移行し、当初計画していた整備ができなかったことによる。今後、次期計画へ移行した整備を進めることで、奈良野下平川線(7-A5)と赤土高橋線(7-A6)を結ぶ掛川浜岡線小笠バイパスが開通し、移動時間が短縮されると考えている。
			最終実績値	1.00%		
III 定量的指標以外の交付対象事業の効果の発現状況 (必要に応じて記述)				<ul style="list-style-type: none"> ・菊川駅南地区(7-A1)では公共施設の整備改善、宅地の利用増進、建築物の整序化(土地の高度利用、不燃化)など、市街地形成のための基盤が整備されたが、中長期的なまちづくりについては、これからの課題である。 ・宮の西地区(7-A2)では、道路等の公共施設整備が促進され、商業施設の進出など、にぎわいのある地域が形成された。 ・横地本線(7-A8)で段向橋に歩道橋を、前後の道路に歩道を設置したことにより、隣接する横地小学校と横地保育園の通学通園路の安全性が向上した。また交通事故発生件数の減少に繋がった。 ・東名高速道路に跨る橋梁(田ヶ谷橋、上ノ畑橋)(7-A9)の長寿命化による安全確保とライフサイクルコスト削減を図るとともに、日本の大動脈への第3者被害の発生防止と安全な通行確保に寄与した。 ・掛川浜岡線バイパスへのアクセス道路である嶺田川上線(7-A7)と赤土嶺田線(7-A8)については、現在整備中であるが一部において歩車道分離がなされ安全性向上が図られたところである。平成26年度中の完成を予定しており、アクセス強化により中心市街地や公共施設等への移動時間が短縮され、交流と暮らしの幅が広がるとともに、安全で快適な通過交通の分散化が期待されている。 		

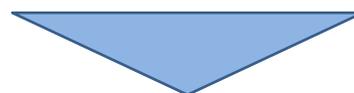
3. 特記事項 (今後の方針等)

次期計画へ移行した掛川浜岡線バイパス整備(赤土高橋線)について、さらなる事業効果が発現できるよう鋭意取り組むと同時に、計画的な道路整備等をより一層行っていくことで、地域間の一体性を図るアクセス強化と、公共施設等を連絡する道路環境整備を行い、にぎわいのあるまちづくりを目指し、安全・便利・快適なまちづくりを継続的に進めていく。

事後評価委員会での審議結果の概要

	委員構成	実施時期	担当部署	委員会の母体組織
学識経験のある委員	静岡文化芸術大学 文化政策学部長 根本敏行教授	平成26年12月2日	建設課 都市整備課	菊川市まちづくり交付金 事後評価委員会
その他の委員	菊川市商工会長 都市計画審議員 鈴木正太郎氏 菊川市農業委員会長 都市計画審議員 平川幸治氏 建築士 市民 戸塚英市氏 建築士 市民 清水武氏			

審議事項	委員会の意見
目標達成状況	事務局原案のとおり確認された。
事業効果の発現状況	菊川駅南地区における事業効果発現状況について、「菊川市の玄関口・中心地としてふさわしい健全なる市街地が形成された」と表現するには厳しいので、「市街地形成のための基盤が整備され、中長期的なまちづくりについてはこれからの課題である。」と表現を改めたほうがよい。これ以外については、事務局原案のとおり確認された。
今後の方針	事務局原案のとおり確認された。
その他	菊川駅南地区は基盤整備されてまちがきれいになったが賑わいはこれからの課題である。一方で宮の西地区には賑わいが生まれた。駅北地区を今後整備することで菊川市にもう一つの核ができればと期待している。



審議結果	菊川駅南地区の事後評価について一部表現を改めることとしたが、これ以外については事務局原案のとおり確認された。
------	--